

## 第2回 N ネット勉強会 アンケート結果

来場者：132名（法人スタッフ含む 名簿記入者数）

アンケート回収数：57名 回収率 43.18%

回答内容

### 1. 本日の内容について

大変満足 31名

満足 20名

普通 1名

無記名 3名

### 2. 開催日時について

① 参加しやすい 41名

② 他の日時が良い 10名

- ・ 日中
- ・ 18：30～ 3名
- ・ 18：30～19：00 2名
- ・ 19：00～ 3名
- ・ 具体的にはないが少し早い 3名

### 3. 今後どのような形式の勉強会を希望するか（複数回答 無回答あり）

① 講演会 46名

② シンポジウム 14名

③ グループワーク 7名

### 4. 今後どういった内容の勉強会に参加してみたいか

① 在宅医療の基礎や概論 31名

② 実技やアセスメント方法など 13名

③ ケース検討 17名

④ 多職種交流 12名

その他…死生観など学びたい ホスピスケアについて知りたい

新しい事業や制度外の事業の取り組みについて知りたい

かあさんの家として自宅を提供したいと思う気持ちが少し出たのですが、もう少しお話をききたい。

### 5.職種

ケアスタッフ 10名

PT 2名

薬剤師 4名

医師 2名

CM	14名
経営者	1名
看護師	18名
保健師	2名
MSW	1名
ST	1名
事務	1名
その他	1名

## 6.講演を聴かれての感想

- ・市原先生の講演を聞くことができ本当によかったです。
- ・ 家族や私自身の死について考えました。母さんの家の話を聞いて安心できた。
- ・ 看取りについてとても考えさせられる時間でした。看取りとは次の世代につなぐという言葉が印象に残りました。
- ・ 施設や病院にまかせっきりのご家族も多数いらっしゃるが、最後まで看取れる事の重要性がわかった。どちらがかけてもダメで互いの協力あつての事だなど思う。
- ・ とても勉強になり涙がながれっぱなしでした。
- ・ いつもの理想の死の方については病院に入院している父をみていて考えていましたが、本日のかあさんの家について知り、はっきりみえるものがありました。最も大切な死を幸せな死にする為にはいかにあるべきかを痛感致しました。
- ・ 在宅ケアのあり方を改めて学ばせてもらいました。ケアのサポートをする看護・医療という考え方に変わってきました。住み慣れた町で出来る事は何か、クリニックとして考え続けていきたい。
- ・ 本人、家族にとって本当にいい最期とはとても考えさせられました。
- ・ 看取りの理想が現実にある。自分の親や自分の生活を思いながら聞いていました。鹿児島にも沢山出来ると良いと考え自分もお手伝いできたらと思いました。
- ・ 今の時代に本当に必要とされるケアだと思えました。
- ・ 民間でされている。制度を利用しない。ホームホスピスを始めるには…。くわしく聞きたいと思う。在宅の介護者の不安を減らす関わりをしていきたい。
- ・ 「かあさんの家」の取り組みを初めて知りました。グループホーム荒田などが最期（命が終りかけるとき）に希望があれば自宅へ利用者を運ぶのですがすばらしいと思います。ケアタウンの裏から死んだ方を出そうとするのは他の死を目の前にして不安になっている人たちへの配慮だと思うのでそれは良いと思います。
- ・ ケア付住宅の運営も仕組みも知らずに不勉強でした。医療にかかわる者として大変参考になりました。
- ・ 看取りについての学びが大切であること。

- ・ その人の人生をその人らしく死への受け止め方を考えさせられました。
- ・ とても理想的だと思いました。が、スタッフは難しいかなと思いました。でも自分はこういう「家」で最期を迎えたい。
- ・ とても興味のある内容だったのでお話を聞いて良かったです。このような看取りの場が増える事を願います。
- ・ 普通に生活している中で最期まで生きる、たまたま・・・と。自然な流れのなかで安心して生きる（亡くなる）事が実現できる、自分のこれからのことも考えるとそういう生き方をしたいと思いました。周りを自然と巻き込むようサポートしようと思いました。
- ・ 施設の看取りはやはり「死」と隠してしまう。「かあさんの家」は隠さない、素晴らしいと思います。感銘しました。母親は病院で亡くなりました。父が 82 歳です。最期は自宅で看取れたら良いと思いました。
- ・ 死の覚悟はそれまでのプロセスが大事であり、それを支援するのが私たちなんだということが心に残りました。
- ・ かあさんの家にはとても興味があり、大変満足でした。地域の方々の協力は、とても大事と感じておりどのように協力を得られるか得るための取り組み、文化から変えていかなければと感じました。
- ・ ホームホスピスという考え方を全く知らなかったのですごくいいなと思いました。死が怖いものでなく文化なのだということをもっと全国に広げて日本人がみんな家でおだやかに死ねたらいいですね。応援しています。在宅医療は大変ではないと伝えられたらいいですが。ドラマにして欲しい。
- ・ 以前も市原先生のホームホスピスのお話を聞き大変な刺激を受けました。今回もお話をきいて「その人がその人らしくのぞむように最期を迎えるようサポートをする」ことの大切さをまなんだ。
- ・ 緩和ケア病棟に勤務しているが、その人らしを支えられているか、改めて考えさせられた。
- ・ 最期までその人らしく生活する。あたりまえのことが病院で入院する上ではどうしても難しくなってしまいます。しかし今日の講演を聴いて難しく考えず、普段の生活（その人らしいあたりまえの生活）を取り入れ看護の関わりをしていきたいと思いました。
- ・ 医療の場では本人の意思や終活という物が、見えないことが多いのですがかあさんの家ではそれがみえていてとても興味もて内容に納得できました。
- ・ かあさんの家が近くにできたらいいと思います。また、このような施設が増えて欲しいと思います。
- ・ 生活する事の大切さを教えていただきました。
- ・ その人にあったケアを実践され、（特に食事面）その人を最期まで個別ケアでサポートする事例に勉強になりました。薬の強さを痛感しました。薬の使用で（暴れる人でした）歩けなくなり誤嚥しやすいケースがあったので胸が痛む思いでした。

- 病院に勤めてきて当たり前のように見てきた光景でしたが、今話を改めて聞いてその人らしい生活を病院で送ることは難しいと思いました。かあさんの家すごく興味がわきました。
- とても暖かいお話した。看取りについて改めて考えさせられました。
- その人がその人らしく最期を迎えることができるのは病院ではなく家に近いスタイルだと改めて感じた。
- 死に行く事について在宅における接し方が少し考えられるかもしれません。
- 改めて在宅での看取り・生活について再確認、再認識する事ができた。明日からの訪問の人との関わりに役立てたい。
- 何度聞いても良い
- 市原さんは何度かテレビで見ている、本当にお会いでき話しがきけた事が大変ありがたかったです。かあさんの家は一度見に行きたいと感じました。かあさんの家からさらにすすんでいかれる市原さんを期待しています。
- 以前もお話を聞かせて頂きました。改めて鹿児島でも同じようなことが出来たらと思いました。鹿児島でも1箇所準備している所があるとの事。今後情報に注意していきたいと思います。
- とても為になりました。看取りの考えが変わりました。末期状態になって自宅で難しくてもより自宅に近い場所で最期まで過ごせれば幸せだと思う。
- 寄り添うことは机上だけでなく経験することも大切だと思いました。「人生はモニターにうつらない」というおう話にハッとさせられました。
- せせらぎに似ているようですが、生活の場に特化している所がいいですね。
- GHに勤務しています。宮崎出身ですので方言を聞いて安心感を持ちました。90歳の父と87歳の母が二人で暮らしています。仕事だけではなく自分自身の今後を考えるのにとても参考になりました。兄が二人いますが共に他県におり、私が両親のそばにいて看取りたいと思っています。実家へ戻るタイミングがみつかっていませんが。今日の勉強会を参考にいろいろ考えてみようと思っています。
- 「住まい、住まい方」「その人らしく」ということを強く思いました。「生活する人」というのを忘れずに支援していく方法をいろいろ利用者さん、ご家族と一緒に考えていきたいと思いました。